

第46回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 第46回死の臨床研究会年次大会に寄せて 松原貴子
2. 第46回死の臨床研究会年次大会に寄せて 辻川真弓

講演

1. 伊勢神宮の智慧 河合真如
2. 患者の意向に沿ったケアを実践するために—ACPとエンド・オブ・ライフディスカッション (EDLD) 木澤義之
3. ケアの神髄—関与し応答する 田村恵子
4. 臨床の現場で臨床倫理をまなぶ 原 敬
5. 写真が語る、いのちのバトンリレー—悲しくもあたたかな看取りの場から 國森康弘
6. コミュニケーションと共同意思決定のなかでの死の臨床 浜渦辰二
7. あいまいな喪失と家族のレジリエンス—災害支援の新しいアプローチ 石井千賀子
8. 新型コロナ禍における生活困窮者支援活動の実践現場から 藤田孝典
9. 最期の時を迎える患者と家族のためのお金の処方箋 川崎由華
10. 社会的処方—孤立という病を地域のつながりで治す方法 西 智弘
11. つながるがんゲノム医療—がんゲノム医療と意思決定支援の現場 奥川喜永
12. 支える人がバーンアウトしないために 栗原幸江
13. 終末期の家族支援—親と死別する子どもをつなぐ 井上実穂
14. ミッシングリンク—失われた光の輪（魂の記憶）を取り戻す 高江洲薫

特別講演

1. 最後の「いのちの授業」—死から生といのちを考える 高宮有介

市民公開講座

- もしもの話をもっと身近に—元気な時に始める人生会議 座長コメント 中橋 恒・辻川真弓
- [第一部] 西川満則・大城京子 [第二部] 小林美香子・岡田まり・中村可奈・菊川栄子
1. 元気な頃から人生会議—本人と家族、人生会議の進め方 西川満則、他

シンポジウム1 死を迎える苦しみをケアする

座長コメント 小杉寿文・村木明美

1. 一人の僧侶が、いのちの現場としての医療現場に想う 徳永道隆
2. 死を迎える苦しみについてホスピスで教わった3つのこと 今井賢吾

シンポジウム2 食べるをつなぐ

座長コメント 村井美代・大西和子

1. 私と食べるをつなぐ私のチーム 加藤那津
2. 終末期がん患者の「食べるをつなぐ」 村井美代、他
3. 終末期の食べる事を口腔からつなぎ支える 大野友久
4. こころの癒しとなる食のケア 藤解すみ子
5. 食べるをつなぐ—薬剤師にできること 二村昭彦
6. 「食べること」の喜びと難しさ—「食べる」専門家の目線から 三澤雅子

7. 「食べるをつなぐ」—言語聴覚士の立場から

山崎 彰

シンポジウム3 尊厳ある看取りのあり方—コロナ前後で変わったもの、変わらないもの

座長コメント 石黒 崇・中 滉子

1. コロナ禍を理由に緩和ケアを諦めない！今だからこそ地域全体で緩和ケアを
—新型コロナアウトブレイクからの再出発 廣橋 猛
2. COVID-19を経験し、クリティカルケア領域における終末期家族ケアの変化を振り返る 安井美和
3. コロナ禍の緩和ケア病棟で私たちが大切にしたこと 松井智子
4. コロナ禍での変化と、私たちの変わらない思い 谷 千春

シンポジウム4 地域で支える人生の最終段階—孤立化を見据えた死の臨床

座長コメント 遠藤太一郎・森田真子

1. 私たちは、できることをする 金田亜可根
2. 人は関わりのなかで変わる。本人の本意で最期まで生きることを、介護の場でしょうよ 和田行男
3. ホームホスピスでの看取り—孤立をつなげるもの 山口 絹

企画委員会主催シンポジウム 真の援助者を目指して

座長コメント 小澤竹俊

1. 真の援助者を目指して 郷堀ヨゼフ
2. 「私の困ったはみんなの困った」 岡久美子

パネルディスカッション1 さまざまな医療の現場でのアドバンス・ケア・プランニング

座長コメント 西村幸祐・木村由紀子

1. 患者の「生きたい」を支える、がん薬物治療現場でのアドバンス・ケア・プランニング 佐藤 温
2. がん専門病院でのアドバンス・ケア・プランニング—対話をつなぐ役割を担う看護師の立場から
向井未年子
3. 当院における医療ソーシャルワーカーの意思決定支援への関わりの玄奘と課題 澤近敦子
4. 救急集中治療領域でのアドバンス・ケア・プランニング 石上雄一郎

パネルディスカッション2 身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を考える

座長コメント 佐藤 健・福永稚子

1. 家族の支援が受けられない終末期患者の意思決定を支える—看護師の立場から 村木明美
2. 身寄りのない人や家族関係が複雑な人意思決定を地域でどう支えるか 御牧由子
3. 身寄りのない人や家族関係が複雑な人の意思決定支援を関上げる 嶋垣智之

ワークショップ

Whole Person Care —医療者のセルフアウェアネスとセルフケア

恒藤 暁・安田裕子

国際交流広場 パストラル・ハーブの音色と歌声による看取りのケア

—invitation to the Sacred Healing Space with Pastoral Harp: 聖なる癒し空間へのいざない

司会 栗原幸江・御牧由子 キャロル・サック

特別事例検討

1. 救急外来で希望していなかった気管挿管を行われた甲状腺がん患者の1例 中山 啓
2. 「このまま死んじゃうの？」死への恐怖と絶望のなかでも、生きる力を信じ続けた児と家族に必要なだったこと 辻 祐子, 他

事例検討

1. 「歩いて帰る」と希望した、悪性腸腰筋症候群を呈したがん患者の支援に緩和ケアチームが関わった1事例 武田ひろみ, 他
2. 超大量経口麻薬を長期間服用し在宅死した50歳代乳がん患者のQOL
—オキシドン経口徐放剤1, 440mgを5年間服用したケース 川越 厚, 他
3. 病識が不十分な患者と危機感が無い家族の意思決定支援
—フォーマルな地域医療連携の限界と課題 佐々木慈瞳, 他
4. さまざまな感情や思いを「怒」で表現する患者を受け止められなかったチーム(病棟スタッフ)の苦悩 河野智子, 他
5. 「信じる心」と向き合う患者、家族の苦悩に直面して 加藤博美, 他
6. “緩和ケアなんて必要ない”とケアを拒絶し続けた妻と症状緩和が必要な患者を同時にケアすることの難しさ 瀬戸ひとみ, 他
7. 切除不能食道胃接合部がんに対して放射線化学療法を行った、意思疎通困難な40歳代男性の1事例—苦悩する家族と共に歩んだ1年間を振り返って 出口章広, 他
8. 自律性スピリチュアルペインを最期まで支えることの難しさ 中原正稔, 他
9. あきらめきれない治療への想いを抱え続け、「治療してほしい」「治してほしい」と訴え続けた事例を通して 比嘉陽子
10. 亡き息子との「継続する絆」が生きる糧になっていた母親の1事例
—絆を継続する事は本当に良い事なのか 赤田つづる, 他
11. 医療者への不信と不満を抱えた利用者と訪問看護師の3週間の関わり 八村正洋, 他
12. 「家に連れて帰って来なければよかった」と家族に言わせてしまった事例 濱崎英美
13. 「このひとには私しかいない」—負担を一手に抱えた妻に対し、家族ケアとは何か
悩みながら関わった事例 植田梨絵, 他

原著

1. COVID-19流行下での亡くなる患者の家族へのケアに伴う救急看護師の葛藤と精神的健康 伊藤由康, 他

調査報告

1. 療養病棟に勤務する看護師の「DNAR」および「DNAR 指示」に関する意識 倉林しのぶ, 他
2. 患者のスピリチュアルペインに対する関わりとして病理解剖を行った1例 中山 啓, 他
3. 終末期がん患者による闘病記における「歩く」意味についての質的研究 添田 遼, 他
4. A介護老人保健施設における看取り教育研修プログラムの実践の評価 永田千鶴, 他